

調査研究部報告書情報シート

記入年月日:2023年4月13日

情報No.	S-05-1	情報区分	プラ循環協研究報告	ファイリング場所	プラ循環協書棚
-------	--------	------	-----------	----------	---------

題名 報告書名	平成16年度 産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関する調査報告書 (第2回産廃大規模調査)				
報告年月	2005年3月	ページ数	170	著者・出版元	プラ処理協

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別		化学物質名	
形状別		用途別	
法規制		国別	日本

調査研究内容	<p>【調査の背景と目的】 近年、環境問題や廃棄物問題は地域のみならず、地球規模で多様な主体による議論、取組みが進められつつある。企業においても環境・廃棄物問題への対応は重要となっており、ゼロ・エミッションへの取組みをはじめ、ISO14001の取得や環境会計の実施、環境報告書の作成にみられるように、具体的で多様な活動が普及しつつある。このように環境・廃棄物問題をめぐる企業の取組みが進展するなかで、この数年における企業の具体的な活動実績に関心が集まっている。そこで、当協会では廃プラスチックの排出、有効利用等の現状と課題を把握することを目的に、平成11年度実施の「廃プラスチック有効利用総合実態調査」で回答頂いた事業所を対象に同一内容で再度調査を行い、その結果を比較検証することでこの5年間における廃プラスチックに対する事業所の取組みの動向・変化を追跡調査した。</p> <p>【調査の概要】 廃プラスチック排出量の多い製造業6業種(化学工業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、パルプ・紙・紙加工製品製造業)を対象とし、平成11年度実施時と同様の調査票を送付した。回答のあった事業所について集計することで過去との比較を行い、事業所のリサイクル等への取組み動向を把握した。主たる調査項目は、廃プラスチックの発生量、性状(形状、樹脂種類)、発生源、分別および処理状況、また有効利用状況に関することである。</p>
調査研究結果	<p>【調査結果】 (廃プラ発生量)化学工業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業では廃プラスチック発生量はほぼ横ばい。電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業では発生抑制が進む。パルプ・紙・紙加工製品製造業の廃プラスチック量の増加は、古紙リサイクルが増えたことによる。(処理状況)全ての業種で再資源化率が向上、マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルの割合が大きく伸びた。特に発電焼却、セメント原燃料の伸びが大きい。一方、全ての業種で単純焼却・埋立が大幅減少した。なお、自己処理が減少し、売却もしくは委託処理が増加した。</p>
備考	第2回産廃大規模調査の補完調査として、製造業6業種(食料品製造業、出版・印刷・同関連産業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業、一般機械器具製造業)と建設業2業種(総合工事業、設備工事業)を対象に「S-07-1:平成18年度 産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関する調査報告書」を公表しており、本書と併せてご活用いただきたい。